



安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	オイルスポンジゴールドプラス OILSPONGE GOLD PLUS
製造元	OILSPONGE LLC 
住所	315 E. Warner Rd., Suite 3 Chandler, Arizona 85225 USA
輸入販売元	地崎道路株式会社
住所	東京都港区港南 2 丁目 13 番 31 号 品川 NSS ビル 6F
電話番号及び FAX 番号	TEL:03-5460-1031 FAX:03-5460-1036
販売担当部署	地崎道路(株) 北海道支店 環境事業部
住所	北海道恵庭市戸磯 201 番地 8
電話番号及び FAX 番号	TEL:0123-39-3101 FAX:0123-39-3102
電子メールアドレス	info@chizakiroad.co.jp
緊急連絡電話番号	011-231-2701 (月～金 9:00 ~ 17:00)
推奨用途及び使用上の制限	油吸着剤
製品サイズ	1 Cubic Foot BOX(1 立法フィート箱入り) 約 2 8 l

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	分類実施日	2024 年 5 月 30 日 事業者向け GHS 分類ガイダンス (令和元年度改訂版 (Ver. 2.1)) を使用
物理化学的危険性	可燃性固体	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない



		特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	分類できない
		特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	分類できない
		誤えん有害性	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
		水生環境慢性有害性	分類できない
		生殖毒性	分類できない
		特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	分類できない
GHS ラベル要素			
	絵表示又はシンボル		
	注意喚起語	警告 危険	
	危険有害性情報	長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害	
注意書き	安全対策	熱から遠ざけること。 必要に応じ、保護眼鏡、保護手袋、防じんマスクを着用すること。 取り扱い後は手をよく洗うこと。 粉じんを吸入しないこと。	
	救急処置	気分が悪い時は、医師に連絡すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てを受けること。 眼に入った場合には、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の手当てを受けること。	
	保管	開封後は、袋を密閉して保管すること。 直射日光及び高温多湿を避け、水がかからない場所に保管すること。	
	廃棄	製品又は外装を廃棄する場合は、国及び地方自治体の規則に従うこと。	

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。



表示・通知義務対象外物質

バーミキュライト

> 98%

危険有害性情報



H319

強い眼刺激

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

2A 警告



H335

呼吸器への刺激のおそれ

特定標的臓器毒性、単回暴露； 気道刺激性

3 警告

注意書き

P264

取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P264

取扱い後は手や顔をよく洗うこと。

P280

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P305+P351+

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを

P338

着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

表示・通知義務対象物質

シリカ

≈ 1%

危険有害性情報



H372

長年にわたる、または反復暴露により臓器の障害
特定標的臓器有害性、単回暴露

1 危険

注意書き

P260

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P264

取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P264

取扱い後は手や顔をよく洗うこと。

P270

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

P314

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

P501

内容物/容器を適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

CAS 番号

1318-00-9

> 98%

名称

バーミキュライト

CAS 番号

14808-60-7

≈ 1%

名称

シリカ



4. 応急処置

一般的な注意事項

吸入した場合

粉塵を吸入した場合、新鮮な空気のある場所に移し
安静にさせ、必要に応じて医師の手当てを受ける。
る。

皮膚に付着した場合

水で洗い流す。

眼に入った場合

1. 直ちに多量の清水で洗眼する。
2. 必要に応じ医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

体内へ取り込むことは想定されていません。意
識があるときには、飲んだものを吐き出させ、
医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

多量の水噴霧、二酸化炭素、粉末及び
泡状消火剤

使ってはならない消火剤

指定なし

火災時の危険有害性

火災の種類によっては、刺激性又は有害ガスが
発生することがある。

特定の消火方法

本製品は難燃性であるが、安全の為保管場所を
移動する。移動が困難な時は、多量の水を注水
する。

消火を行う者の保護

消火活動は風上から行い、火災の種類によって
発生する有害なガスの吸入を避ける。
状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護
具及び緊急時措置

作業の際には、必要に応じ、保護眼鏡、保護手
袋、防じんマスクを着用する。

環境に対する注意事項

排水溝へ洗い流さない。

封じ込め及び浄化方法及び
機材

掃き集めて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	発散した粉じんをすいこまないように、必要に応じ、保護眼鏡、保護手袋、防じんマスクを着用し、取扱い後は顔、手、口等を水洗いする。
	接触回避	強酸、強アルカリ性資材、発火性物質との直接混合は避ける。
	安全取扱注意事項	床にこぼれた粒で足元が滑り、転倒する事があるので、掃除する。
	安全な保管条件	1. 開封のまま放置すると、雑草の種子やカビの胞子の混入の恐れがあるので、開封後は密封して保管する。 2. 直射日光を避け、高温・多湿下での保管は避ける。 3. 可燃性物質との近接は避ける。 4. 強酸・強アルカリ性物質との近接は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

	設備対策	発塵を起こさぬ装置機械を使用する。
	管理濃度	設定なし
	許容濃度	日本産業衛生学会、ACGIH 共に、本品の設定はないが、粉塵対応として、下記の値を推奨 日本産業衛生学会勧告値（2020 年）第 3 種粉塵 吸入性粉塵 2 mg/m³ 総粉塵 8 mg/m³ アメリカ産業衛生専門家会議 吸入性粉塵 3 mg/m³ 総粉塵 10 mg/m³
保護具	呼吸器の保護具	防塵マスク
	手の保護具	ゴム手袋
	目の保護具	ゴーグル型眼鏡
	皮膚・身体の保護具	長袖作業衣



9. 物理的及び化学的性質



物理的状态	固体
色	茶褐色
臭い	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	<1%
pH	データなし (バーミキュライト pH 4~6)
溶解性 (水)	バーミキュライト構成成分の内、硝酸アンモニウム、硫酸カリウムが可溶
比重/密度	0.66-96 g/cc (バルク密度)
粒子特性	粉粒混合状細粒

10. 安定性及び反応性

反応性	製品は約 300° で大量に増加した場合、剥離反応が起きる。
化学的安定性	<1315.6℃で安定
危険有害反応可能性	特になし
避けるべき条件	直射日光、高温、多湿
混触危険物質	強酸、強アルカリ又は還元剤
危険有害な分解生成物	特になし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	区分に該当しない 構成成分である下記物質については、次の有害性情報がある。 硝酸アンモニウム{ラット LD50 値 2217mg/kg(ICSC)}を含有する。
急性毒性 (経皮)	データなし
急性毒性 (吸入)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	データなし 過剰な量のバーミキュライトにさらされた場合、目との接触により物理的刺激を引き起こす可能性がある。
呼吸器感作性	データなし 過剰な量のバーミキュライトを長期間吸入した場合、通常はじん



肺とは関連しない単純なじん肺症状（肺機能の低下）を引き起こす可能性がある。

非常に高レベルの粉塵に長期間さらされた場合、肺機能を伴う複雑な塵肺が発生する可能性がある。

皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし 長期的かつ継続的な暴露による吸入は、既存の喘息や呼吸器疾患を悪化させる可能性がある。
誤えん有害性	データなし

12 環境影響情報

生態毒性	1998 年に南アフリカ水林業省の後援の下で製品の水抽出物に対して行われたインビトロの生態毒性研究は、製品がおそらく環境に有毒ではないことを示した。以下に挙げた各有害性試験において、50 グラムの生成物を 1 リットルの蒸留水で抽出した。 得られた溶液を使用して、毒性パラメータを導出した。48 時間 EC0 および EC50(ダフニア・ピューレックス致死性)は >、1 リットル当たり 50 ミリigramの抽出物(mg/l)であると判断した。72 時間 EC0 及び EC50(藻類、セレナストラムカブリコルヌタム、増殖阻害)は>50mg/l であると決定した。72 時間 EC0 及び EC50(細菌、シュードモナスプチダ、増殖阻害)は>50mg/l であると判定した。48 時間 EC0 及び EC50(カエル、ゼノプス・ラエビス、胚致死性)は>50mg/l であると決定した。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
オゾン層への有害性	データなし 閉鎖性水域では水質の富栄養化をもたらすことがあるので、排水については「水質汚濁防止法」の排水基準を守ること。

13. 廃棄上の注意

1. 下水、河川等に直接流さない。



2. 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理する。
3. 燃やさない（難燃性である）。

14. 輸送上の注意

輸送規制	規制されていません
	1. 雨水等による水濡れ防止を行う。
	2. 破箱、荷崩れ等を起こさぬよう適切な対策をとる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	第 57 条 表示対象物質（硝酸アンモニウム） 粉じん則 粉じんが発生する屋内作業場は粉じん則が適用される。 粉じんを多量に吸入した場合、肺障害等の健康障害のおそれがあるため、作業環境測定を行うとともに、その結果に基づいたリスクアセスメントを行うこと。
化学物質管理促進法 （PRTR 法）	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
大気汚染防止法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
消防法	非該当
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
港則法	非該当

16 その他の情報

注意] 本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。
この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。
記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。
注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用下さい。